

「新生ANA」の第一歩の年に

2010年3月期は、2008年以降続いた世界同時不況の影響も残る中で、第1四半期に発生した新型インフルエンザの影響にも見舞われ、極めて厳しい事業環境に置かれました。当初計画に組み込んだ730億円の緊急対策プランと、その後追加した300億円の緊急収支改善策を、着実に実行しましたが、それらの対策をもってしても及ばないほどの、極めて大幅な収入の減少となりました。最後まで、増収とコスト削減に向けた努力を続けましたが、売上高12,283億円、営業損失542億円、経常損失863億円、当期純損失573億円となりました。この結果、株主の皆様への配当を見送らざるを得なくなりましたことを心よりおわび申し上げます。

さて、本年は、念願であった羽田、成田の両首都圏空港の発着枠拡大が実現します。この大きなチャンスに向けて、長年にわたって準備を重ねてきたANAグループにとっては、国際線を中心に事業規模を拡大させていく勝負の年になります。今春策定した「ANAグループ2010-11年度経営戦略」の下で、増収策とさらなる徹底したコスト構造改革により1,180億円の収支改善を進め、環境変化に強い、柔軟で強靱な収支構造への転換を図ってまいります。

本年に入り国際線旅客、国内線旅客、貨物ともに航空需要は着実に回復してきており、2011年3月期は、売上高13,600億円、営業利益420億円、経常利益130億円、当期純利益50億円を計画し、最終黒字を確保して、1株当たり1円の配当を予定しております。

2011年3月期を、将来にわたって、安定的に利益を生み出すことのできる企業体質に生まれ変わる「新生ANA」の第一歩の年にしたいと考えており、ANAグループ全社を挙げて努力していく所存です。

株主の皆様のご理解とご支援を重ねてお願い申し上げます。



2010年6月
代表取締役社長 伊東 信一郎